

# 「そうか／そっかー」のあいづちの機能と 日中接触場面における中国人日本語学習者のあいづちの誤用分析

古川智樹

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

tomokifurukawa@hotmail.com

## 1. 研究動機と目的

筆者が中国人日本語学習者（以下 NNS）と話しているとき、その NNS が「そうかー↓」というあいづちを頻繁にうっているのを聞き、違和感を覚えることがあった。あいづちは同じ形式であってもイントネーションやアクセントによって、様々な感想や感情を伝えられるが、注意しなければ、意図しないことまで伝わってしまう恐れもある。そこで、本研究ではあいづちの「そうか／そっかー↓／↘」を対象に、日本語母語場面での使用実態との比較から NNS の誤用を調べ、上記のような違和感をなぜ持ったかについて分析する。具体的には、以下の2点、①「そうか／そっかー↓／↘」が日本語母語話者（以下 NS）の会話場面ではどのように用いられているのかを明らかにすること②NNS がどのように「そうか／そっかー↓／↘」の意味を間違え、NS との会話で使用しているのかを明らかにすること、を目的とする。

## 2. 先行研究

あいづちの機能については、堀口(1988)、メイナード(1993)、松田(1988)、ザトラウスキー(1991)をまとめると以下の6つに分類できる。

- |               |          |           |
|---------------|----------|-----------|
| 1. 聞いているという表示 | 2. 理解の表示 | 3. 同意の表示  |
| 3. 否定の表示      | 4. 感情の表出 | 6. 沈黙を埋める |

また、「そうか／そっかー↓↘」についての研究は筆者が見る限りではなく、日本語の教科書（対象としたのは『げんき』（1999）、『A Course in Modern Japanese[revised edition]』（2002）『みんなの日本語』（1998）『なめらか日本語会話』（1997））でも使用場面、イントネーションなどの詳しい記述はなく、対訳がついているのみであった。

## 3. 調査概要

### 3.1. 分析対象と表記方法

分析対象は NS 同士の会話、NS と NNS の接触場面会話、各 10 組、計 20 組、総時間数 200 分の会話を分析対象とする。

なお、今回対象とするあいづちは「そうか／そっか（一）」で、そのうち疑問、疑いを表す「そうか／そっか↑」のような「上昇イントネーションのもの」は対象としない。「そうか／そっかー↓／↘」のように「急に下がるイントネーションのあいづち」と「緩やかに下がるイントネー

ションのあいづち」を対象とする。会話中に表記した記号は以下に説明する通りである。

- ・上昇イントネーション → ↑
- ・あいづち → ( )
- ・笑い → <笑い>
- ・イントネーションが急に下がる → ↓
- ・発話の重なり → / /
- ・沈黙 → . . .
- ・イントネーションが緩やかに下がる → ↘

### 3.2. あいづちの定義

あいづちは現在までに様々な定義がなされてきている。本研究ではメイナード(1993:58)のあいづちの定義を採用する。

話し手が発話権を行使している間に聞き手が送る短い表現(非言語行動を含む)で、短い表現のうち話し手が順番を譲ったとみなされる反応を示したものは、あいづちとしない。

### 3.3. 撮影方法、撮影時間及び話題

3つのビデオカメラとテープレコーダーを使い、各組30分程度撮影、録音した。なお、初めの10分は撮影への心的配慮を考慮し、分析の対象にしない。会話の話題は、自由会話とした。

### 3.4. 分析手順

Tannen(1992)がGumperz(1982)をもとにしてまとめた「異文化間の誤解を分析するためのモデル(cross-talk model)」の手順をまとめており、それを基に以下のような手順で分析を行った。

1. NS同士・NS/NNSの接触場面の会話を録音し、文字化する。
2. 各参加者がどのように会話を解釈したのかを確認するために、個別に面接する。
3. NS同士による会話事例とNS/NNSの接触場面を比較する。
4. 録音と文字化資料を調べ、異文化間で異なる解釈がなされた談話行動を確認する。
5. 会話の各参加者と同じ文化に属する人々に録音を聞かせて、それらの人々の解釈が会話の参加者によるものと同じパターンを示すかどうかを検討し、解釈の基準の文化的差を調べる。

## 4. 「そうか/そっかー↓」と「そうか/そっかー ↘」のあいづちの機能

### 4.1. 「そうか/そっかー↓」の機能

#### 4.1.1. 聞き手の既知のことで、話し手の発話によって思い出したことを表す

NS1 : 大学生の間はシンガポールとか(あー)台湾とか(うん)あとそうですね韓国も何回か行って<S  
笑い>そうなんですよ 結構好きで(あー)うちからも結構近くて行きやすいんですね  
NS2 : あっそうなんですか?  
NS1 : うん(ふーん)近いといふとなんかあれ(うん)ですけど まあ東京まで行くのと(ふーん)お  
お同じくらい(あっそっか↓)それよりも短いくらいで行っちゃうんですよ

NS1はNS2の「名古屋から東京と名古屋から韓国は同じくらいの距離」という話を聞いて、その距離を思い出し、「あっそっか↓」と自分も知っていて、思い出したということを表している。主に「あっ」「あー」などの発話の後に「そっか/そうか」を付け加えた形で現れる。「そっか/そうか」の後は、「そっか/そうかー」と伸ばすものもあれば、伸ばさないものもあった。

#### 4.1.2. 興味・関心を表す

NS1 : 農学部とか興味を持った人が(あ)多かつたんだけど(そうなんだ)うーん でも研究職に作ってことはやっぱな  
んかねその人が言ったなんか院に行くには絶対英語を勉強しろって言って(へえーそっか↓)でその人は  
英語がすごい苦手だったから院にいきたくてもいけなかったっていう感じで

NS1 の従兄弟が大学院進学を希望していたが、英語ができないために進学をあきらめたという話  
で、聞き手である NS2 は大学院進学を希望しているため、その話に興味を持っており、「へえー  
そっか↓」という「興味・関心」を表すあいづちをうっている。主に「そうか/そっか」の前後  
に「へえー」など関心を示すような表現が後に続く形で現れ、「そっか/そっか」の前には「あ  
ー」「あっ」などの表現は付かない。

#### 4.2 「そうか/そっかー ↘」の機能

##### 4.2.1 理解・納得を表す

NS1 : マレーシアとかにも(うん)なんかあるんじゃないんですか?  
NS2 : 行ってみたくって(うん)でも部活が終わるまで多分いけないなあと思って(そっかー ↘)うー  
んだから来年 今年の(うーん)12 11月で部活が終わる予定なんで(うん)終わったら行き

この会話 A では、NS2 が「部活が忙しいので旅行に行きたいのに行けない」という話を受けて「そ  
っか ↘」とあいづちをうち、「理解・納得」を表している。主に前後に何もつかない形式で現  
れるか、前に「あ」がついた形で現れていた。

##### 4.2.2. 間を埋める

NS1 : すごい好き嫌いがある子とか(あー)そうで<2人笑い>/うーん(ふーん)/・・・(そっかー ↘)  
NS2 : いいな——回私も一人暮らしとか(うーん)してみたいんですよ ずっと通ってたから(うん)大  
学になるときは別に自宅でいいやと

会話 A では、話し手の発話が終わった後の沈黙のときに出てきた「そっか/そうか」である。会  
話 A ではそれを契機に聞き手であった NS2 が発話権を取って、次の発話に移っている。この間を  
埋める「そっか/そうか」は話し手、聞き手の両方が発話権を取ることができる間があるときに  
現れた。使われ方としては、発話権を取らず、聞き手であることを表示する場合と発話権をこれ  
から取るということを表示する場合の2通り見られた。

##### 4.2.3. 聞いているということを表す

NS4 : まだ新人なんで(うんうんうん)そういう授業はあんまり(あーほんとにー)やらせてもらえな  
くて演習を(うんうんうん)見たりとかですけど(そっかー ↘)それでもなんか説明したり

NS4 がまだ新人のため、授業で実験に参加させてもらえないという話で、聞き手である NS5 は「そ  
うなんだ」「なるほど」「うん」といったあいづちと同じように「聞いている」ということを表す  
あいづちをうっている。主に「あ」「へえー」などは付随せず、単独の形で現れていた。

### 4.3 その他

今回のNSによる会話データでは見られなかったが、上記に挙げたものの他に「そうか/そっかー↓」では「理解・納得を表す」機能もあると考えられ「そうか/そっかー↘」では「残念だ/しかたない」という意味合いを含めた「残念だということを表す」機能もあると考えられる。

### 5. NNSによる誤用

NNS : もし海外で日本語を教えたいなら簡単ですけど (んー) 英語でそして数学を教えるのはたぶん/難しい(難しい)/はい(難しい)

NS : でもよくカンボジアとか (あー) の国は (あー) そういう日本人が多いんですね (あそうか!) 英語で他の教科を教えるとか (あーそうか!) そういう人たちが多くて (あー) そういうのあこが

NNS が「あそうか」「あそっか」というあいづちを間違っ使用している場面が見られた。あいづちの教育を受けたことがないため、NS 同士の会話を聞いて、日本人の会話の方法を学ぶしかなく、「あそうか」「あそっか」を聞いたときに、中国語の「是吗」に置き換えて理解し、そのまま使用していたことがフォローアップインタビューでわかった。

### 6. まとめ

NS の会話場面を調査した結果、「そうか/そっかー↓ ↘」の機能として「聞き手の既知のことで、話し手の発話によって思い出したことを表す」「興味・関心を表す」「理解・納得を表す」「間を埋める」「聞いているということを表す」が今回の調査で見られた。また、「そうか/そっかー↓ ↘」にはイントネーションが深く関係しており、「そうか/そっかー↓」においては、それらに付随する「あ」「へえー」のあいづちも機能に関係していることがわかった。

そして、NNS の誤用では聞き手行動の学習が行われなかったために「そうか/そっかー↓ ↘」のNSの使用場面を見て、間違っ使用していたことが分かった。学習言語を注意深く観察し、使用していくことは、言語能力を上達させる必要な手段であるが、今回の調査のように間違っ使用も見られるので、聞き手の役割の重要性を認識した教育が行われるべきであるとする。

#### <参考文献>

- 坂野永理、大野裕、坂根庸子、品川恭子、渡嘉敷恭子(1999) 『げんき I、II』 The Japan Times  
ザトラウスキー・ポリー(1993) 『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』くろしお出版  
スリーエーネットワーク(1998) 『みんなの日本語』株式会社スリーエーネットワーク  
名古屋大学日本語教育研究グループ(2002) 『A Course in Modern Japanese[revised edition]  
volume 1,2』財団法人名古屋大学出版会  
富阪容子(1997) 『なめらか日本語会話』株式会社アルク  
堀口純子(1988) 「コミュニケーションにおける聞き手の言語行動」『日本語教育』64号  
松田陽子(1988) 「対話の日本語教育学—あいづちに関連して—」『日本語学』第7巻第13号明治書院  
メイナード・K・泉子(1993) 『会話分析』くろしお出版